

## 宝塚市自立支援協議会 専門部会「しごと部会」

### 令和元年度活動結果報告

I 開催日時	第1回	令和元年5月16日(木)	出席者16名	13:30~15:00
	第2回	令和元年7月18日(木)	出席者15名	13:30~15:00
	第3回	令和元年9月19日(木)	出席者16名	13:30~15:00
	第4回	令和元年11月21日(木)	出席者15名	13:30~15:00
	第5回	令和元年1月16日(木)	出席者15名	13:30~15:00

## II 要旨

### ① 第1回しごと部会(令和元年5月16日)

#### ○今年度の委員構成について

- ・新任委員も含めて自己紹介を行う。今年度より事務局担当に加えて、障害福祉課よりソーシャルワーク担当者が各専門部会に委員として出席するとの報告を行った。また、障害福祉課の福祉計画担当より、計画の見直しを行うにあたって各専門部会の協議の内容を確認していきたいとの説明があった。

#### ○報告事項

##### ・昨年度末全体会の報告

前年度2回目の全体会では試験的に講演を行わず、各部会の報告と意見交換のみでプログラムを構成した。各部会の30年度を通しての活動内容と今後の展望についての報告があった。

##### ・共同受注窓口について

前年5月から一般社団法人として法人格を取得し、11月に設立記念式典が開催された。前年度1年間を通しての実績報告を行った。3月末までの数値は確定していないが、およそ340万円から350万円の実績になると思われる。市からの補助金については、現在調整を行っており、補助金の使途としては専任スタッフを1名採用すること、グッドジョブとしての事務所を設ける事を想定している。現在グッドジョブに参加している事業所は26か所あり、今後新たに2か所加盟する見込みである。

西宮市・尼崎市・宝塚市3市の共同受注窓口で連絡会を開催し、市同士での動きを確認していく。また、店舗での出店やイベントなど2、3か月に1回くらいの頻度で顔を合わせ、連携を深めることを考えている。西宮市の共同受注窓口に加盟している事業所は就労継続支援B型が中心であるが、宝塚市と同様に地域活動支援センターや生活介護事業所もいくつか参加している。

- ・宝塚健康福祉事務所としては、グッドジョブを介してイベントのチラシ配布を依頼した事もあった。その際はグッドジョブに加盟している5事業所の間でそれぞれの作業量の調整を行った。1つの事業所では大口の発注を受けることが困難であるが、複

数の事業所で割り振れば受注が可能になる。スケールメリットは共同受注窓口の一つの意義である。

- ・民間企業と共同受注窓口との間で受注価格に差はあるのか。

⇒業種毎に価格相場は考慮しており、福祉事業所が請け負うからといって必ずしも安価という訳ではない。

- ・ポスティング作業は実際に誰が行っているのか。

⇒各事業所の利用者とスタッフで担っている。以前市からチラシの市内全戸配布作業を請け負った際は13事業所が参加し、2か月で配布を完了させた。

○今年度の年間計画について

例年実施している福祉事業所合同説明会と雇用啓発セミナーは今年度も継続する。

合同説明会に関して、今年度は8月末の平日に実施するという案が挙げられた。例年は9月末の土曜日に開催していたが、学校の運動会や他のイベントと重なっているとの意見があったため、変更案が提示された。

(参加委員より)

- ・兄弟がいる人に関しては、他のイベントと重なると片方には行けなくなるので、重なりにくい8月開催の方が良いのではないかと。

- ・平日に開催すれば、事業所のスタッフも参加しやすくなるのではないかと。

- ・平日であれば就労している保護者は参加しにくいのではないかと。

⇒例年との参加人数の比較を行う。特別支援学校でのチラシ配布は例年9月の始業式から行っているが、8月開催となれば配布も早めに準備をする必要がある。

- ・土曜日開催の場合は両親が揃って来ている事もあったが、平日であるとそれは難しくなるのではないかと。

※今年度は8月末の平日に開催することで決定した。

8月最終週もしくはその前週で開催日を調整する。

雇用啓発セミナーに関しては、例年通り2月中の平日での開催を予定。従来、企業のさらなる障害者雇用の促進に向けた啓発内容であったが、今回は当事者の目線に重点を置き、当事者と事業者のディスカッション形式で進めていく内容を想定している。働く当事者、雇用主の双方の気付きとなるような内容になればと考えている。詳細は今後検討していく。

(参加委員より)

- ・今年度は就労促進大会を2月に予定しているが、平日での開催を想定しており、しごと部会のセミナーと重ならないよう日程を調整する。

○今年度のテーマについて

しごと部会としては、「他専門部会との横断的な取り組み」を今年度のメインテーマとして考えている。他の専門部会でもしごと部会とリンクするものや、連携して考えていくべき内容がある。けんり・くらし部会では、日中活動、退院・退所後の活動を

どうしていくか、こども部会では、18歳を迎えてからの移行期の支援と関係機関との連携をどうしていくか等、共に考えられる余地があるだろう。

今年度はまず取り組みのきっかけを作り、次年度以降明確な形になるように考えている。

(参加委員より)

- ・しごと部会の内容は分かるが、他の部会については詳しく分からない部分もある。
- ・それぞれの部会が交わる機会があって良いのではないか。
- ・各部会の協議が繋がっていくと、新しいアイデアが生まれることも期待できる。
- ・障害福祉課のソーシャルワーク担当者が各部会に入っていくことで出すことのできる意見もあるのではないか。
- ・他部会の内容も知ることで自身の知識や考えの幅が広がる。
- ・共通のテーマを設定し、各部会のペースとすり合わせが上手くいけば良い。
- ・各部会の中にそれぞれ当事者と関わるテーマがある。こういった取り組みは必要だろう。
- ・部会の横の繋がりが現状希薄であると思う。もっとお互いに知り合っていくべきだ。  
※今年度のしごと部会のメインテーマは「部会同士の横断的な取り組み」として協議を進めていく。

## ② 第2回しごと部会（令和元年7月18日）

### ○報告事項

- ・第7回福祉事業所合同説明会について
- ・作業部会を立ち上げ、準備を進めている。例年は9月末に開催していたが、今年度は8月26日（月）の開催を予定している。
- ・市内の一部の小学校では26日に始業式が行われるため、日程が重なってしまうことになるが、説明会は午後であるため、始業式終了後に足を運んでくれるかもしれない。
- ・特別支援学校には既にチラシを配布している。
- ・13時の開場に合わせて会場準備を行う。例年通り来場者への記念品配布も実施する。
- ・市内の各事業所には、参加申込みの発信を行っており、少しずつ返信が来ている状況。

参加事業所数が確定すれば、それに応じた会場内レイアウト図を作成していく。事業所の数に応じて説明ブースと販売ブースの配置や規模を検討していく予定である。

### ○共同受注窓口（グッドジョブ）について

- ・市からの補助金について、現在細かな事項に関する協議を行っている。
- ・今年度はキャピリンピック（<sup>がい</sup>障害者運動会）の事務局をグッドジョブが担当する。  
(受注内容の報告)

- ・チラシにシールを貼る作業を受注し、2日の納期で5万枚を仕上げるという内容であった。納期までが短く作業量も膨大であったが、8事業所で分担して完了させた。
- ・花屋敷せいのりの里の「納涼祭」にグッドジョブとして出店を予定している。  
7月27日（土）18時半から20時半。グッドジョブとして9事業所が参加予定。  
1ブースは事業所のコーヒー販売、もう1ブースではアクセサリーや雑貨類の販売を行う。

(委員からの質問)

- ・今年の事業展開の見通しはどのようになっているか。

⇒受注できる事業所は増えている。また、行政からの問い合わせも増えている。

- ・事業PRはどのように行っているのか。

⇒共同受注窓口の各理事が持つネットワークから受注に至っている事が多い。年間通して依頼をしてくれる企業との繋がりもある。ホームページ等は現状予算面での課題もあり、作成していない。

#### ○検討事項

- ・今年度、しごと部会は「他専門部会との横断的な取り組み」をメインテーマとして考えている。これまで部会同士の交流や繋がる機会が無かったためである。
- ・しごと部会の主催で福祉事業所合同説明会と雇用啓発セミナーの2つのイベントを毎年実施しているが、他の部会との交流は無い状況であった。三役会の中でも現状のままでよいのかという意見が出ていた。
- ・例えば、こども部会とは成人期の課題として就労や日中活動をどうしていくかという繋がりが考えられる。けんり・くらし部会（地域移行Gr）とは退院後の日中活動や住まいの確保、けんり・くらし部会（地域生活Gr）とは医療や他機関との取り組み、社会資源の1つとしての結びつき等、必要と思われる連携の形は色々あるのではないか。
- ・しごと部会の中でまずは現状を踏まえ、横断的な取り組みについて自由に意見を出し合う。

(各委員の意見)

- ・当事者として、退院して色々な事があっても、普通に生活したいという思いがある。仕事はハローワークで探そうとするがなかなか見つからない。障碍があることを伝えずに就職するが続かないこともある。人との縁があり、現在の仕事に就いている。
- ・実際に他の専門部会と関わっている人は協議の内容などが分かりやすいだろうが、そうでない人は議事録を読んでもなかなかイメージできない。他の部会の方に直接話を聞くことや、議論をする事でお互いに距離が近づくのではないか。
- ・何かに取り組もうという時、各専門部会だけで担おうとしても上手くいかないのではないか。全体会等、広い範囲を見渡してくれている人達からの提案やテーマ設定に応じて、展開していく方が効果的だと思われる。各専門部会と全体会での両輪で

考えてみてはどうか。

- ・それぞれの部会で課題や困っている事を募り、項目毎にピックアップしていくのはどうか。
- ・高齢の障<sup>がい</sup>碍者の世帯支援に関する課題についてケースを通じて知りたい。
- ・まずはいずれかの部会と連携してみるのもよいのではないか。合同説明会の中に子どもに関する情報や高齢になった時のことを盛り込む等、他の部会との接点を作っていくのはどうか。ただ、それぞれの部会でテーマや進捗状況にも違いがあり、一口に連携と言っても難しい場合もあるだろう。
- ・他市のこども部会では各機関から困っている事を抽出した上でそれをK J法でまとめ、その項目毎にワーキングを実施していた。取り組みの例として情報をまとめた冊子やQ&A集の作成を行っている。部会の委員は福祉専門職だけでなく、さらに幅が広くてもよいと思う。1年以上の期間設定で取り組んでもよいのではないか。
- ・全体会と各部会共通の議題があれば取り組みやすい。その議題について各部会で連携していくのはどうか。全体会から提案があり、それを各専門部会が支えていくようなイメージで進めていくということ。

### ③ 第3回しごと部会（令和元年9月19日）

#### ○報告事項

#### ① 第7回宝塚市福祉事業所合同説明会の報告

- ・来場者数・参加事業所からのアンケート結果を報告

今年度は平日での開催となったが、来場者数は例年の土曜日開催よりもやや多く盛況であった。平日のため相談支援事業所等、事業所関係者も多く来場した。

伊丹市・朝来市等他市の特別支援学校からも人が来ていた。

(当日参加された委員の方からの感想や意見)

- ・前年度は各ブースで一人ひとりの話を詳しく聞きすぎたためにアセスメント的な状況となり、時間が無くなってしまい説明を聞くことができなかつた人もいたため、事前に事業所に向けて一人あたりの説明時間を短くし、多数の来場者へ対応ができるよう呼びかけた。
- ・準備や後片付けも参加事業所職員が積極的に協力しており、連帯感があつた。
- ・リハビリテーション病院のケースワーカー、他市（伊丹市・朝来市等）の特別支援学校、相談支援事業所、企業関係者等、様々な関係機関が来場したことで他市の情報等を知ることができ、関係機関のネットワークが広がる良い機会となったと思う。
- ・どのブースの説明を聞こうかと迷ってしまいがちな状況だったように思う。
- ・隣のブースで大きな声で説明をされていると、自分のブースでの話が聞こえないとの意見があつた。
- ・配布された市内事業所一覧と当日の参加事業所が異なっていたため、会場内を案内す

るコンシェルジュ的な役割の人がいるとよりスムーズになったのではないかと。

→今回は開催時期が早くなりチラシ作成から配布までの時間が短く、チラシ作成の段階では参加事業所が確定していなかったため、チラシには市内の事業所一覧を掲載する形となった。

- ・事業所の特色が一目でわかるものがあると良いのではないかと。
- ・会場内にホワイトボード等を使用し、参加事業所の配置をわかりやすくしてはどうか。
- ・チラシを福祉センターや市の窓口、市内医療機関の待合室などに設置してはどうか。  
→福祉センターや市役所、養護学校、精神科病院等にはチラシを設置している。
- ・施設・事業所の数が少ない中、卒業後に思うような事業所が利用できない場合はどうするのか。  
→個別に保護者、学校、相談支援が考えていく。こやの里特別支援学校では高等部から進路説明会を行っている。就労継続支援B型を利用する場合、アセスメントが必要である。なるべく早い時期から進路について考える必要がある。
- ・就労継続支援Bは比較的に利用しやすいが、農作業等は見学だけでやめてしまう人もいる。  
→宝塚市にも農作業を行う事業所はあるが、やはり作業のハードルは高いようである。

る。

- ・来場者向けのプレゼントは好評であるため、次年度以降も継続していく。
- ・説明会に参加された人から、自分の事業所に利用希望の問い合わせがあった。
- ・利用者が仕事を探す場所であると同時に、福祉事業所とのマッチングや雇用、当事者のニーズを調査しに来る企業もあり、ビジネスチャンスを見出す場でもある。

※アンケート結果や参加委員からの意見を参考に、次年度の開催時期やチラシの内容、会場内配置等について検討していく。

## ②雇用啓発セミナー

令和2年2月5日（水）宝塚市西公民館にて開催予定。

今年度の講師は姫路市の「有限会社サポートセンターれいめい」から招く。

実際に働いている当事者と社長に話を伺う予定。

年内に広報用のチラシを作成し、配布を進める。

## ③ 共同受注窓口から

- ・今年度よりキャピリンピック（<sup>がい</sup>障害者運動会）の事務局業務を行っている。
- ・12月の障害者週間記念事業の会場設営及びチラシ仕分けを受注予定。
- ・補助犬シンポジウムのチラシ仕分けも受注の見込みである。
- ・今年度より市上下水道局の植栽管理業務を受注している。
- ・7月13日～9月1日の期間市民プールにてアイスクリームの販売を行った。  
一人の時給が500円程となった。

※次回の部会では上半期の受注実績と前年度との比較についての報告を行う予定。

#### ○検討事項

今年度のテーマ「他専門部会との横断的な取り組み」について

- ・自立支援協議会全体の活性化を目的に、しごと部会が中核となり他の専門部会と協力・協働の動きを作っていきたい。
- ・各専門部会の委員の意見を聴取しつつ、計画を立てて確実に進めていく。
- ・障害者<sup>が</sup>の高齢期へのスムーズな移行や、障害者<sup>が</sup>と高齢世帯の問題を考えると、新たな専門部会として「高齢部会」等を立ち上げるべき、というような意見も出るかもしれない。

(参加委員より)

- ・時間をかけて新しい事に挑戦していくことに魅力を感じている。
- ・他の部会のメンバーから意見を聞けることは有意義である。
- ・現在、全体会は専門部会の報告の場となっている。本来、全体会は何かを生み出す場であると思うので、今後は取り組むべき課題が見つかるような場となってほしい。  
この取り組みから宝塚市の自立支援協議会が盛り上がっていけばよいと感じる。
- ・自法人から自立支援協議会に4名携わっているが、法人内部では代表会で報告がある程度である。他の専門部会のことを知らないといけないと感じている。
- ・地域・利用者のニーズを知り、短時間でも働ける寄合窓口のようなものを作っていればよい。
- ・現代は情報こそ溢れているものの、隣に誰が住んでいるか知らないような時代。地域の関係性が深かった昔に戻りたいと思うことがある。  
住民力が希薄化している現在においても、障害のある人もない人も住みやすい街を実現するための協議の場が自立支援協議会であろう。自立支援協議会の活性化が当事者や家族にとってのより良い生活に繋がっていくはずである。
- ・今年度下半期は、他専門部会委員の意識調査アンケートの作成を始める予定。  
設問や構成等について、まずは三役及び事務局で検討を進める。

#### ④ 第4回しごと部会（令和元年11月21日）

##### ○報告事項

- ・常任委員の交代について  
今回より常任委員が一名交代となった。
- ・全体会の報告  
障害福祉課より、11月5日（火）に開催された全体会について報告を行った。

第1部 講演「地域生活拠点支援等について」の報告。

第2部 各専門部会の活動内容の報告

部会長より今後、宝塚市は委託相談支援事業所を地域包括支援センターと同様に市内7地区それぞれに地域担当として振り分け、支援体制を強化する方向で検討を進めている。地域生活支援拠点支援の整備と、しごと部会が進める専門部会の横断的取り組みをどのようにリンクさせられるかという点も今後のポイントとなる。

- ・第7回障害者雇用啓発セミナーについて

2月5日（水）14：00～16：00 宝塚市西公民館セミナー室にて開催予定。

姫路市の『有限会社 サポートセンターれいめい』より、代表取締役の野村 浩之氏と社員の方々数名を講師として招く。

- ・共同受注窓口について

令和元年度上半期の実績について報告を行った。（対象は平成31年4月～令和元年9月）

受注額合計¥1,645,194円、前年度比103%、増加額¥52,023円

会員数26事業所。

受注先も増加し、宝塚市のHPにはグッドジョブの広報ページが作成された。

なお、営業的な活動は現状特に行っておらず、口コミからの依頼が多い。

- ・キャピリンピック（障害者運動会）の報告

参加事業所への記念品とポスター・プログラムの作成、及び参加者へ配布するお茶の購入代行と会場への搬入について業務として予算することができた。

当事者やその家族の参加人数は前年に比して微増となった。

ただ、受付時に人数を漏れなくカウントできなかった部分があるため、次年度は正確な参加人数の把握を試みる。

現在、参加者から回答を得たアンケートの集約を行っており、結果は改めて報告する。

グッドジョブが事務局を担当し、実行委員の役割分担を明確にしたことで準備、進行等をこれまでよりスムーズに行うことができた。

## ○検討事項

- ・「他専門部会との横断的な取り組みについて」

取り組みについてしごと部会から各部会へ発信していくことを定例会及び全体会で提案した。具体的な内容は決定していないが、これから他の専門部会の課題や意見を聞き取り、一緒に取り組みたい旨を説明し、概ね好意的な反応を得た。

これまで他の部会の委員との関わる機会があまりなかったため、取り組みを通して他の部会と顔の見える関係を築ききっかけになれば良いと考えている。



#### 今後のスケジュール案

- ・令和元年度下半期に各専門部会への委員に向けての意識調査アンケートを作成する。
- ・年度末にアンケート案を完成させる。
- ・令和2年度上半期にアンケート調査を実施する。
- ・令和2年度下半期にアンケートの回答を集約する。
- ・令和3年度から具体的な取り組みを開始する。

途中で計画が立ち消えてしまわぬよう、また、他の専門部会の負担にならないよう確実に進める。半年毎の定例会を節目とし、意見を集約していく。

#### (横断的取り組み、アンケートの内容についての委員の意見)

- ・手をつなぐ育成会からは全ての専門部会に委員が出席しているが、会員同士が部会の内容を共有できていない。
- ・アンケート作成については他の部会の協力が必要となる。ワーキンググループを立ち上げるべきではないか。皆で顔を合わせて話をする場が必要だろう。
- ・障害福祉課は職員が各部会に参加し、内部で情報共有をすることで協議会の全体像を把握することができている。係全体としてはケースワーク中心の業務を行っており、就労がキーワードとなり今後への希望が生まれることも多いと実感している。
- ・特別支援学校も様々な所と連携し共生社会について学校としての役割を考えている。障碍のある人とない人が交流し、繋がっていけるよう、障碍への理解に繋がる動きができるとよい。
- ・景気も不安定な中、企業はIT化やAI化を推進し、人件費の削減とともに雇用環境は徐々に悪くなっている。その中で宝塚市における自立支援の在り方やビジョン、目標と現状のギャップを他の部会に問いかける事で新たな課題が見つかるのではないか。
- ・合同事業所説明会に別のテーマで参加するとすればどのようなテーマで参加できるかを問い掛けてはどうか。企業にも参加してもらい、子どもから大人までが参考になる福祉フェアのようなものを企画してはどうか。
- ・他の部会と連携する事が目的ではなく、障碍のある人もない人も安心して暮らせるよう各部会で検討し、協議会を活性化させていく事が大切であるとする。

#### ⑤ 第5回しごと部会（令和元年1月16日）

##### ○報告事項

#### ① 共同受注窓口について

宝塚市からの補助金について

補助金金額：2,360,000円（令和2年1月～令和2年3月31日分まで）

- ・労働局、雇用保険適応事業所登録等事務手続き→手続き中

- ・専従職員配置→雇用保険適応事業所登録等手続きが完了次第、募集・選考開始予定
- ・備品購入→随時
- ・HP 作成→随時

グッドジョブには現在 26 カ所の事業所が加盟しており、運営は順調である。

## ②第 7 回 障害者雇用啓発セミナー

令和 2 年 2 月 5 日（水） 14：00～16：00 宝塚市西公民館セミナー室にて開催予定。

講師は姫路市の「有限会社サポートセンターれいめい」より代表取締役他社員数名を招く。

既に案内チラシは関係機関に配布しており、今回は商工会議所の協力により会員事業所 1500 社へ周知することができた。

- ・その他（委員からの周知事項）

令和元年度 障害セミナーについて

2 月 12 日（水） 10：00～12：00 ソリオホール

映画「道草」を上映する。（自閉症と知的障害者の生活を映したドキュメンタリー映画）

2 月 19 日（水） 10：00～12：30 市立中央公民館 1 階ホール

「知的障害者を理解する」

宝塚すみれ隊が講師となり、知的障害の疑似体験等を行う。

きらっと☆オンリーワン

バザール開催

2 月 4 日（火） 10：30～16：30 アピア 1 2 階ふれあい広場

阪神北圏域の障害者就労支援施設で作られた自主製品の販売を行う。

## 2. 検討事項

### ①「他専門部会との横断的な取り組み」について（アンケート案の検討）

各専門部会の全委員、各専門部会の事務局を担当している相談支援事業所等へアンケート調査を行う方向で進めている。

現在のアンケート案については、しごと部会三役と有志数名の協力によって作成された。

自立支援協議会（しごと部会から）のアンケート

#### 1、あなたが所属されている専門部会について

（1）今、専門部会で取り組んでいることはどんなことですか？

（2）これから専門部会でどんなことに取り組みたいと思っていますか？

（ご自身の所属機関・団体からの意見も含めて）

（3）疑問に思う事や課題だと思うことはどんなことですか？

#### 2、横断的取り組みについて・横断的取り組みと聞いてどんな感想を持たれましたか？

#### 3、自立支援協議会について・自立支援協議会に対して、どんなことをするものだとお考えですか？

(アンケート案に関する委員からの意見)

・手をつなぐ育成会からは全ての専門部会に委員を派遣しており、実際にアンケート内容について団体内で話し合う事ができた。

横断的取り組みについて、4つの部会の繋がりが必要ということは理解できるが、具体的な方策は思いつかない。自立支援協議会は各会で議論した内容の成果を出していく所であると考えている。

・全体会では各専門部会の活動報告とそれに関する質疑応答で進んでいき、各団体から意見は出ても共通の課題や次年度の取り組み等全体的な討議がなされていない。各専門部会が協働して協議していきたい。

・課題や疑問が専門部会の活動についての課題を指すのか、<sup>がい</sup>障害者を取り巻く環境全般の課題を指しているのか分かりにくい。

⇒所属している専門部会の課題として設問を考えていた。

・しごと部会の取り組みについて、セミナー等を更に多くの人に周知したい。

⇒SNSで発信し市民から「いいね」が拡散するようなシステムが使えれば良いと思う。市民への発信が増えると、そこから市ホームページを見る人が増える可能性が高まるのではないか。

・自立支援協議会には<sup>がい</sup>障害のある人が自由に相談でき、課題に取り組んでもらえるような場になって欲しい。また、<sup>がい</sup>障害者が自由に相談できる窓口があるとよいと思う。

高齢部門では地域包括支援センターがあり、相談先が明確になっている。認知症についてのセミナー等も開催しており参加者も多い。

・アンケートの趣旨と結果の活用方法が分かりにくいので、配布時に説明が必要と感じる。「自立支援協議会でこれからどんなことをしていきたいか」とで前向きな質問の仕方がよいと思う。

・質問の意図を書いておいた方が回答しやすいと思う。

⇒アンケートの趣旨の説明することで他の部会の委員と話ができるような仕組みも必要かと考える。

・普段の業務では困りごとを発信できる人との繋がりはあるが、それ以外の人と話をする機会が少ない。様々な立場の方が自身の業務や具体的なエピソードを共有できれば、より具体的な課題が見つかるのではないか。

- ・各専門部会が一年間の報告をしている中で共通課題等が見えてくると思う。障害者も高齢者も長生きする時代となり、先の事を広い視野で考える必要がある。

※今後のアンケート作成について

アンケートについては上半期の全体会で報告し、他の専門部会の三役及び各部会の事務局にも周知を完了させている。

回答者によって設問に対しての捉え方が違ってしまわないように構成を検討する。

また、アンケートには自立支援協議会運営要綱も添付し、部会毎の共通項目に沿って課題を抽出していくような方向性も一考したい。